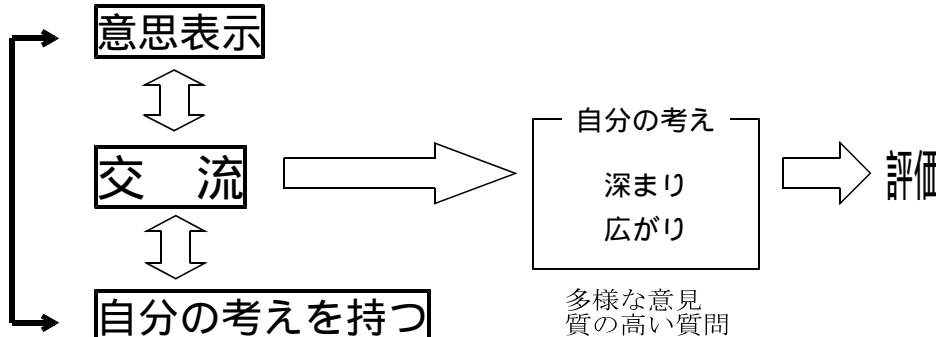


学 校 名	山形市立山寺小学校 山形市大字山寺１６５０番地 TEL695-2004 FAX695-2514	校 長	海老名 陽一
		研究主任	山口 順子
研 究 主 題	『自分の考えを持ち、 はっきり意思表示ができ、 交流し合える子どもの育成』 (３年次)		
主 題 設 定 の 理 由	本校では教育目標を「郷土を愛し、社会に役立つ人間の育成」とし、めざす子ども像を次のように設定している。 ・考える子ども ・助け合う子ども ・たくましい子ども 以上の教育目標を受け、小中併設の特性を生かし、９年間で「生きる力」が身に付くよう、小中一貫の教育を推進している。また、子ども一人一人の良さと可能性を伸ばすことに努め、将来、自己実現ができるように基礎的基本的な学力の定着を図ることを経営の方針にあげ、教育実践に取り組んできた。 本校の子どもの姿を見ると、課題に対して積極的に自分の考えを持てない子が多く、集中して話を聞けず、自己表現がなかなかうまくできない子が多い。また、固定化している人間関係の中で、子どもたちの関わりが少ないという実態があげられる。このような子どもの実態をふまえ、平成１３年度から２年間「自分の考えを持ち、はっきり意思表示ができ、交流し合える子どもの育成」をテーマに研究を進めてきた。 その結果、子どもたちは、集中して話を聞けるようになってはきたが、子ども同士で話を深めたり、自分の考えを広げたりすることはまだ難しく、集会など大勢の中で自分の考えをうまく表現できる力がついていないといえない。 中学校においても、根拠を基に互いの考えを深め合うことは難しく、それ以前に基礎的な力が充分についているとはいえない。そこで、本年度も上記の研究主題を設定して研究を進めることにした。		
研 究 目 標	「自分の考えを持ち、はっきり意思表示ができ、交流し合える子どもの育成」を実現するために、各教科の授業実践を通して、指導のあり方を追求する。		
	研究内容 (１) 人との関わりの中で交流する力を育て、交流することで自分の考えに深まり、広がりを持つことをめざしたい。そこで、子どもの実態に合わせて仮説を立て、授業の中でそれを検証していく手段を考えて実践していく。 ○ どのような手段を取った時に子どもの変容が見られたか明らかにする。 ○ 共有した部分での評価をしていく。		

研究の内容と方法	(2) 小学校1年から中学校3年まで発達段階に応じて「基本的な学習態度」を身につけさせ、質の高い交流のできる子どもをめざしていく。 【交流について】 教科の特性により、「交流」の捉え方は様々であり、交流＝話し合い・練り合いと狭い意味で捉えるのではなく、交流＝いろいろな活動の中でよさや違いに気づき、共有化を図りながら自分の考えを広げたり、深めたりする力と捉えて研究を進めていく。 また、「自分の考えを持つ」→「意思表示ができる」→「交流」という段階を迫うものではなく、交流することで自分の考えを持つこともあり、「考えを持つ」「意思表示する」「交流する」という3つの力は螺旋状に高まっていくものとする。人との関わりの中で交流する力を育て、交流することで、自分の考えに深まり、広がりを持てるような子どもを育てていきたい。  2 研究方法 (1) 研究推進委員会、全体会、小中部会などで共通理解を図りながら、研究を進める。 (2) 一人一授業とし、大研は小学校1回、中学校1回とする。 (3) 実践した内容については、「校内研だより」などで報告する。 (4) 研究のまとめは、指導案＋校内研だよりとする。 (5) 指導案は、A4で2～3枚程度とし、交流についての評価項目も入れるようにする。								
研究計画	<table border="0"> <tr> <td>4月～ 5月</td><td>・研究方針、内容、組織、年間研究計画 ・学習環境整備</td></tr> <tr> <td>6月～12月</td><td>・授業研究会</td></tr> <tr> <td>12月～ 2月</td><td>・研究のまとめ ・研究のまとめ作成</td></tr> <tr> <td>3月</td><td>・次年度の計画</td></tr> </table>	4月～ 5月	・研究方針、内容、組織、年間研究計画 ・学習環境整備	6月～12月	・授業研究会	12月～ 2月	・研究のまとめ ・研究のまとめ作成	3月	・次年度の計画
4月～ 5月	・研究方針、内容、組織、年間研究計画 ・学習環境整備								
6月～12月	・授業研究会								
12月～ 2月	・研究のまとめ ・研究のまとめ作成								
3月	・次年度の計画								